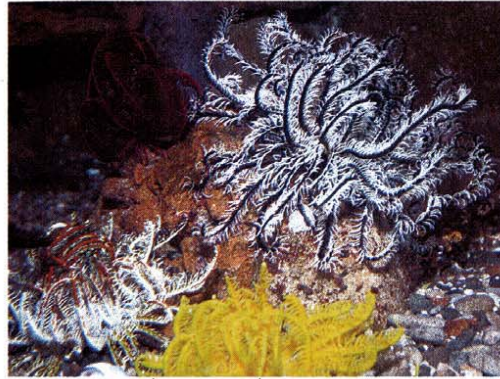


ウミシダの仲間

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

77 白山 義久



まるで植物のような形をしたウミシダはヒトデやクモヒトデ、ウニ、ナマコと同じ棘皮(きよくひ)動物という動物門に属している。しかし、ウミシダは有柄曹門という絶滅した種を多数含む分類群に属してお

り、他の棘皮動物とは系統的に大きく異なる。ウミシダの特徴の一つが、「花」のように広がる腕と羽枝である。この器官を使って、海中に浮かぶ粒子状の有機物をこしとって食べる「過食者」である。そう言われてこの腕の広がりを見ると、水はウミシダの花の内側から外側に流れているように思う読者が多いだろう。しかし実際には、水は花の外

花のような腕を広げるウミシダの仲間(水槽番号214)

腕の「花」広げる「過食者」

側から内側に向かって流れている。この下降流による過食は、内肛動物など他のグループでも知られている。羽枝のすき間を水が通り過ぎるときに、渦ができて腕に向かって粒子が流れていくので、効率よく餌をとることができるといえる。

ヒトデを見ると一目瞭然(りようぜん)だが、棘皮動物は五方相称の体制をしていて、体の軸が鉛直方向になっているので背腹という概念がない。かわりに口のある面と口のない面という二つの面で区別する。わたしたちにおなじみのウニやヒトデは、口が地面を向き、肛門(こうもん)は反口側にあるので水面側に位置している。だから水族館にいるウニをよく見ると、ふんが体の上に乗っているのもしばしば見ることができるといえる。

一方ウミシダは、餌を集める

(京都大学瀬戸臨海実験所長)

有名な話だ。